

人権コラム 心、豊かに

◆ 後戻りできないからこそ「賢く」活用

「AI は不正確な情報を表示することがあるため、生成された回答を再確認するようにしてください。」

AI モードを使って検索すると上記のような文が表示されます。

文章の作成や要約、画像の生成など空前の「(生成) AI」ブーム。まるで魔法のような便利なツールですが、例えばあなたが SNS に投稿した写真(画像)が知らないうちに AI の学習に使われているかもしれません。AI があなたとそっくりの画像を作り、あなたの名前で偽の文章を書き、それが悪意を持って拡散されたら…。そうすると「人格」や「尊厳」に係わる問題に発展してしまいます。

また、AI には序文のような「ハルシネーション(もっともらしいウソ)」という困った特徴があります。誤った情報を学習してしまった結果、「知らないと言えない AI」はウソが混じった答えを返してることがあります。某大学の教授は、「生成 AI を使って作成した学生のレポートには誤情報が多い」と嘆いています。

そうは言っても、AI には利便性だけでなく、さまざまな効果が期待されています。このため、①SNS のプライバシー設定を見直し、公開範囲を限定する②利用規約やプライバシーポリシーを読んでみる③回答を鵜呑みにせず、複数の情報源で確かめる などについて心掛けておくことが好ましい対応策といえます。

AI やスマートフォン、SNS、ナビゲーションシステムなどの新しい機軸が出回ると「古い対応」には後戻りできません。

かつて大ヒットした映画では AI の脅威が示されましたが、映画のような大それた脅威を招くことはあり得ないとしても、AI はその使い方によっては、人格や尊厳を著しく傷つける危険性を秘めています。便利なツールについては、それぞれの特性を理解し賢く利用する姿勢を保ち、「必要性と信頼性」を確認し振り返る意識(習慣)を身に付けることが求められています。

「広報ひた」 令和 8 年 2 月号掲載